



市議会議員 砂田喜昭 TEL 67-4322



参議院議員 井上哲士

衆議院議員 笠井あきら

参院比例予定候補 かわえ明美

参院選挙区予定候補 高橋わたる

# 洪水調節に役立つのか 利賀ダム三つの疑問

## 12月市議会

民主党政権のもとで全国  
のダム建設の見直しが始まり、利賀ダムもその対象になりました。砂田市議は12月市議会での火爪県議（日本共産党）の質疑を踏まえ、「この機会に利賀ダムの必要性を質しました。」と

と効果を市独自でも検証すべきではないか。小矢部市は、効果をよく調べた上で、重点要望に利賀ダムの建設促進を繰り返しているが、これは見直す必要がある。」と質しました。

### ① 洪水対策に有効なのか

利賀ダムができれば、雄神地点（砺波市庄川）で河川水位を3.1センチ下げる（150年に1度の洪水毎秒6500トン）を想定した場合、図で示した水位低下効果は、戦後最大

の洪水毎秒3396トンの場合巨ときくが、被害を受ける高岡や射水など下流に行けば行くほどその効果は低くなるのではないか。

### ② 堤防の補強こそ有効ではないか

利賀ダム工事事務所が作成した庄川水系庄川浸水想定区域図では、庄川の合口堰堤付近で堤防が決壊した場合に、正得地区の七社付近や、水島地区、松沢地区、荒川地区が水深0.5m未満の浸水が想定される。

これを防ぐには、堤防の補強、仮に洪水が堤防を乗り越えても崩れないような対策をとるか、震災などの伝統的な対策を強化した方が費用の面でも効率的ではないか。

### ③ 地滑り地帯にダムをつくって、大丈夫か

1963年、イタリアのバイオンダムでは、地滑り地帯につくったダムが地震で崩壊し、土石流で2千人もの被害を出した。これ以後世界では地滑り地帯にダムをつくるべきでないといわれた。

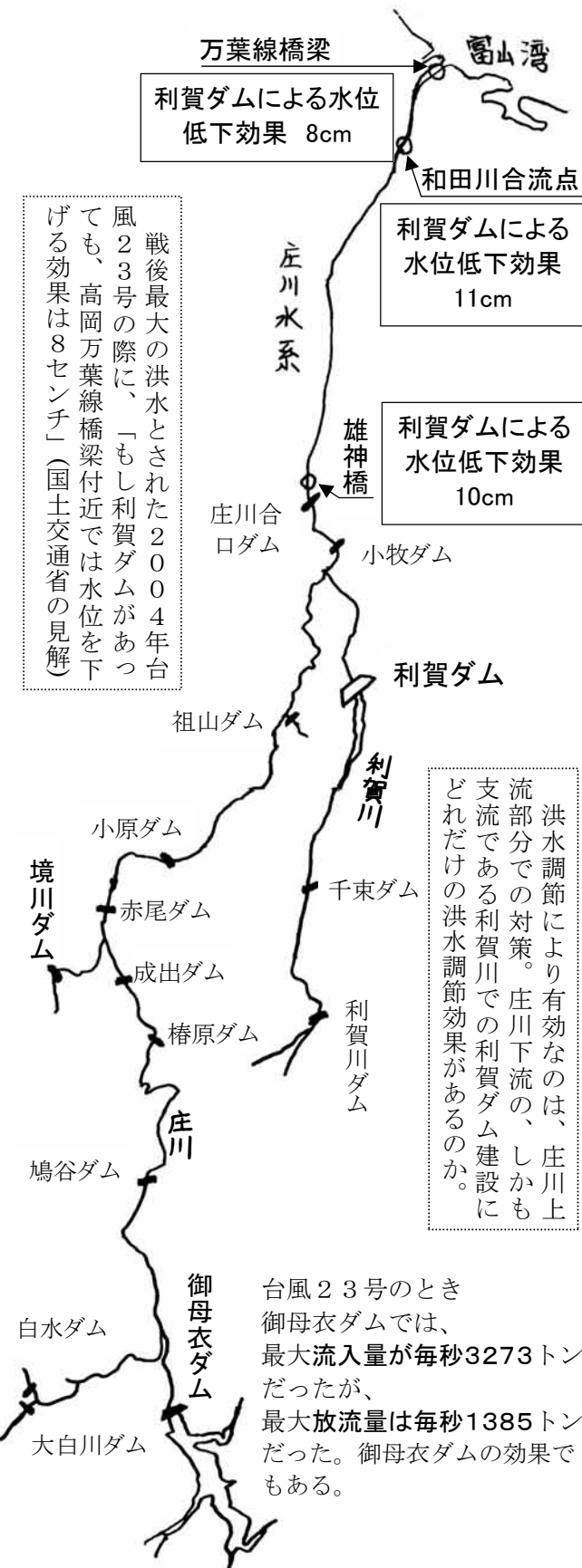
奈良県大滝ダムの白屋地区は、2002年にダムが完成した。地帯である利賀にダムをつくって大丈夫か。

あと、地滑りで地区全戸（37戸）が移転せざるを得なかった。このダムの総事業費が、本体着工時の1540億円から、3640億円にふくれあがった（新たな地滑り対策430億円も含む）。同じ地滑り地帯である利賀にダムをつくって大丈夫か。

## 疑問点に答えられず

当局は「呉西各関係市とダム事業の継続を求めている。ダム事業の見直しについては、国土交通省が有識者会議で検討

を始めたところであり、今後の推移を見極める必要がある。」としか、答えられません。



戦後最大の洪水とされた2004年台風23号の際に、「もし利賀ダムがあっても、高岡万葉線橋梁付近では水位を下げ効果は8センチ」（国土交通省の見解）

洪水調節により有効なのは、庄川上流部分での対策。庄川下流の、しかも支流である利賀川での利賀ダム建設にどれだけの洪水調節効果があるのか。

台風23号のとき御母衣ダムでは、最大流入量が毎秒3273トンだったが、最大放流量は毎秒1385トンだった。御母衣ダムの効果でもある。

## 火爪県議が指摘

### 12月県議会

### いつまでたってもできない長期計画

国土交通省がひた隠しにしていた利賀ダムの治水効果について、日本共産党の火爪弘子県議が12月11日、県議会一般質問で初めて指摘し、関係方面に衝撃をひろげています。質問の概要を紹介します。

この基本高水の設定が高すぎるために、膨大な予算と年数がかかっている。いつまでたってもできない計画との批判が専門家からあがっている計画です。

### 当面30年で整備する二つ目の計画

そこで、もう1つ別に、当面30年間で行うより小規模な庄川河川整備計画（毎秒4200トンの洪水想定）が作られました。納得できないのは、なぜその30年間の計画に利賀ダムが必要なのかということ。

私は先の経済建設委員会では、これによれば、庄川下流の万葉線橋梁付近では「8センチしか水位を下げられない」。国土交通省はこの数字を、庄川流域懇談会にも示さず、経済建設委員会での私の質問に答えるために県が問い合わせても答えず、ホームページの河川整備計画の説明でも伏せています。「ダムの効果が小さいのを隠すためでは

ないか」との指摘があがるのは当然です。これだけの水位を他の方法でカバーするのに、いくらの事業費がかかるのですか。堤防のかさあげや川底の掘削、既存ダムの活用などで行うとしても、利賀ダムの事業費1550億円よりかかることはとも思われません。

### 庄川下流で8センチの水位低下効果しかない

この基本高水の設定が高すぎるために、膨大な予算と年数がかかっている。いつまでたってもできない計画との批判が専門家からあがっている計画です。